

ショートコメント vol.79 (2017年8月10日)

テーマ：インバウンドの動きは決して好調ではない
～増加に占める韓国の寄与度が急上昇。それを除けば低調な推移～

●直近の訪日外国人客数は好調な結果

観光庁の発表によると、直近6月の訪日外国人客数は前年比で18.2%増と、概ね好調な結果となった(図表1)。

4、5月も20%超のプラスであったが、これは前年の4、5月に韓国からの訪日客が急減した反動であり、韓国を除いた動きは低調であった。そのため、韓国による反動がなくなる6月の動きにつき、前年比の伸び率などが注目されていた。

今回の発表で18.2%増と判明し、ひとまず不安は杞憂に終わったように見えるが、実はそうともいえない。

●訪日客数の増加に占める韓国の割合が急増

というのも、6月の国別の動きをみると、4、5月に続いて韓国の寄与度がかなり高い(図表2)。

前年比で18.2%の増加のうち、ほぼ3分の2を韓国が占めている。結果として、韓国を除いた動きは、5月に続いて1ケタ増にとどまった。前年比が1ケタ増となるのは、今年に入って4度目であり、昨年よりも伸び率が一段と低くなっている(図表3)。

一方、韓国の高い伸びが6月も続いたことは意外であるが、このところの中韓関係の変化などで、中国向けの旅行に影響が出た可能性もあろう。

●訪日客数の推移に関する今後の注目点

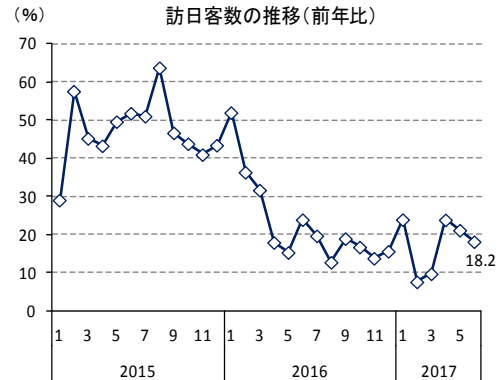
この6月も韓国が増加の中心となったことで、今後の訪日客の動きについては、以下の点が注目される。

まずは、やはり韓国の増勢がいつまで続くかであろう。それが途切れたタイミングで、訪日客数全体の伸び率が鈍化することになる。

一方、韓国の高い伸びが続いた場合も、意外な部分に影響が出る。韓国は、他の国や地域に比べて旅行日数、消費額ともに、かなり少ない(図表4、次頁)。このまま訪日客に占める韓国の比率が高まれば、特に1人当たりの消費額については、減少の進む可能性が高い。

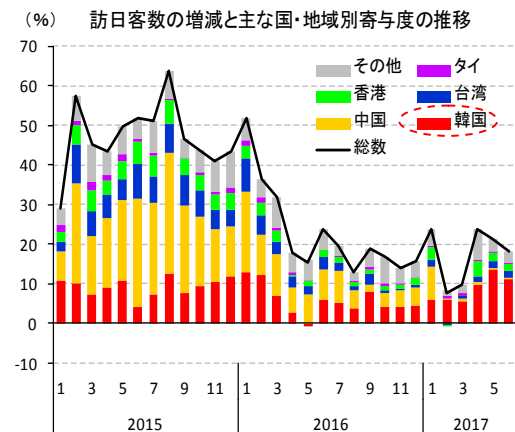
そのほかにも、今年に入って韓国を除く国・地域の動

【図表1】



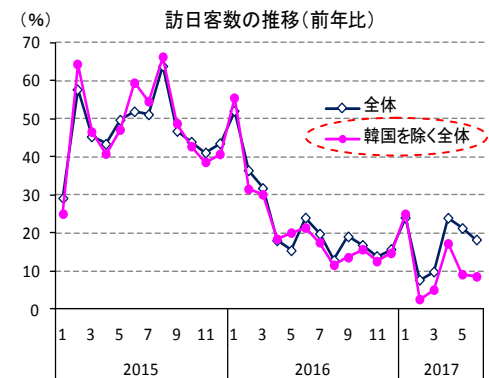
(出所)日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」

【図表2】



(出所)日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」

【図表3】



(出所)日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数」

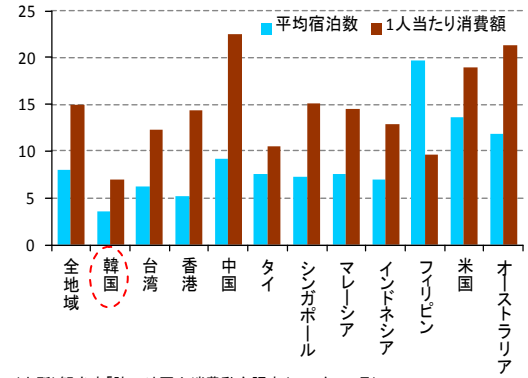
※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

きが低調なことも気がかりである。前年比でプラスが続いていることをポジティブに捉えることもできるが、仮にこの傾向が続くようであれば、2030年に6千万人といった、中長期的な目標達成にも支障をきたす。

いずれにせよ、今後の訪日客の推移については、韓国の動向はもちろん、全体的なトレンドの変化に注意が必要とみられる。

【図表4】

(泊・万円) (主な国・地域別) 訪日客の平均宿泊数、1人当たり消費額



(出所) 観光庁「訪日外国人消費動向調査(2017年4-6月)」

本件照会先: 大阪本社 荒木秀之
TEL:06(4705)3635 mail:hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。